

## 2019年度 野洲市の教育方針

はじめに

## 北代 色(きただい いろ) さんの作文を紹介します。

わたくしは うちがびんぼうであつたので がっこうへいっておりませ  
 だから じをぜんぜんしりませんでした。  
 いま しきじがっきゅうでべんきょうして かなだけは だいたいおぼ  
 えました。  
 いままで おいしゃへいっても うけつけでなまえをかいでもらってい  
 ましたが ためしにじぶんでかいてためしてみました。  
 かんごふさんが 北代さん と よんでくれたので 大へんうれしかつ  
 た。  
 夕やけを見ても あまりうつくしいと思はなかつたけれど じをおぼえ  
 て ほんとうにうつくしいと思うようになりました。みちをあるいておっ  
 ても かんばんにきをつけていて ならつたじを見つけると 大へんうれ  
 しく思います。すうじおぼえたので スーパーやもくよういちへゆくのも  
 たのしみになりました。  
 また りよかんへ行っても へやのばんごうをおぼえるので はじめか  
 かなくなりました。これからはがんばって もっともつとべんきょうをし  
 たいです。  
 十年ながいきをしたいと思います。  
 (昭和) 四十八年二月二十八日

北代 色

わたくしは うちがびんぼうであつたので がっこうへいっておりませ  
ん。

だから じをぜんぜんしりませんでした。

いま しきじがっきゅうでべんきょうして かなだけは だいたいおぼ  
えました。

いままで おいしゃへいっても うけつけでなまえをかいでもらってい  
ましたが ためしにじぶんでかいてためしてみました。

かんごふさんが 北代さん と よんでくれたので 大へんうれしかつ  
た。

夕やけを見ても あまりうつくしいと思はなかつたけれど じをおぼえ  
て ほんとうにうつくしいと思うようになりました。みちをあるいておっ  
ても かんばんにきをつけていて ならつたじを見つけると 大へんうれ  
しく思います。すうじおぼえたので スーパーやもくよういちへゆくのも  
たのしみになりました。

また りよかんへ行っても へやのばんごうをおぼえるので はじめか  
かなくなりました。これからはがんばって もっともつとべんきょうをし  
たいです。

十年ながいきをしたいと思います。

(昭和) 四十八年二月二十八日

北代 色

これは70歳になる北代さんが地元高知の識字教室で書かれた文章です。差別と貧困のために文字を身につけることができず、70歳になって学習するなかで取り戻してきた北代さんの「学ぶこと」に対する熱い思いが伝わってきます。そして、文字を覚えることで新たに覚えてきた夕焼けの美しさは、何よりも「学ぶこと」が人生を豊かにすることや生きていくたくましさを私たちに伝えてくれます。

私たち野洲市教育委員会は、子どもたちはもとより全ての世代のみなさん一人ひとりの人生がより豊かで充実したものとなりますよう、多様な学びの場や機会を提供していくことを目標にしています。そして、学校・園の教育（保育）はもちろん、文化やスポーツ、地域の歴史振興などを含めた教育行政を進め、野洲のまちづくりへとつなげていきます。

## 1. 2018年度をふりかえって

教育委員会では、本市の『野洲市総合計画』のもとに『野洲市教育振興基本計画』(注1)(2016～2020年度)を定めています。そこでは、基本理念「愛と輝きのある教育のまち・野洲」のもと、一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも学びあうひとつづくり・まちづくりをめざしています。また、子どもから高齢者までがさまざまな学びや活動に取り組むことで、「笑顔」「元気」「自信」「誇り」などの輝きを創出する教育を進めてきました。そして、2018年度は次のような成果や課題が見えてきました。

### (1) 学校・園

本市では、人権教育や特別支援教育に力を入れてきました。その結果、ここ数年変わらず8割以上の子どもたちが学校生活を楽しいと感じています。これは、変化の激しい現代社会で子どもたちにたくましく生きる力が育ってきていることの現われです。

一方で、中学校の不登校が大きな課題(5.16%)となっています。これは全県(2.98%)や全国(3.38%)を大きく上回っています。小学校では、本市(0.53%)は全県(0.56%)や全国(0.55%)と変わらないものの、「行き渋り」が多い実態があります。そして、この傾向は就学前にも見られます。

また、ここ数年の全国学力学習状況調査(注2)では、本市の学力の高い層や低位層の割合は全国と変わりませんが、中間層の低下傾向が見られ、学力の二極化が拡大してきたことが伺えます。それは放課後の読書時間の二極化にも現れており、特に中学校では「一日10分以下、もしくは全く読まない」という生徒の割合が全国より10ポイント以上高い状況です。さらに、ゲームやインターネットをしている児童生徒の割合も全国より数ポイント高いという結果も出ています。家庭や地域での過ごし方が課題であると考えています。

さらに、2018年度には重大ないじめや教職員の体罰事案が発生しました。これらから学校の初期対応や組織対応の課題が見えてきました。また、何よりも教職員自身のいじめや体罰に対する認識の甘さが問われています。

そして、ベテラン教職員の大量(定年)退職と若手の増加による授業や集団づくりの指導力の問題、さらには、教職員の長時間労働(働き方改革)(注3)など

の課題もあります。また、道徳の教科化や小学校英語の拡充、プログラミング教育<sup>(注4)</sup>の導入など、新しい教育内容に対応する教員の資質向上も求められています。

ハード面では、学校・園の耐震化は完了しました。また、三上幼稚園は、新たに三上保育園と一体的な施設として2019年4月に「三上こども園」として開園します。一方で『小中学校施設保全計画』<sup>(注5)</sup>を策定したように、校舎施設の老朽化や学級増に伴う校舎増築などの課題があり、中主小学校、野洲北中学校を中心に工事を進めています。

さらに、小・中学校では昨年度に続いてICT教育<sup>(注6)</sup>（情報通信技術を活用した教育）の推進を図っており、引き続き高度情報化社会を生き抜く力の育成が課題となっています。

## （2）家庭や地域

子ども一人ひとりの豊かな成長には、世代を超えて多くの人が子どもの育ちに関心を持ち、家庭・地域での積極的な関わりを持つ必要があります。

家庭は子どもが育つ上で重要な責任と役割を担っている場ですが、一部には保護者が子育てに無関心であったり、逆に過保護・過干渉などによる子どもの成長にゆがみが見られることもあります。また、地域は子どもが社会性や公共性を身につける場ですが、地域住民の人間関係の希薄化などから「地域の子どもは地域で守り育てる」という意識が低下してきています。

その結果、一部には規範意識や人権意識の低さに起因するいじめなどの生徒指導上の課題や、貧困・虐待などの課題を抱えた家庭への支援、保護者の孤立化や地域との協力関係などに課題が見られます。

## （3）生涯学習・生涯スポーツ

2018年2月、永原御殿跡<sup>(注7)</sup>発掘現地説明会を持ちました。ここは江戸時代初期、徳川将軍の上洛専用宿館として大変貴重な遺跡です。当日はこれに地元妓王まちづくり推進協議会が協賛し、豚汁の炊出しと駐車場支援がありました。説明会への参加者は400人を超え、地域連携の大きな成果となりました。今後は、国の史跡指定や地元と協働した保存活用をめざします。

こうした取組みは生涯学習推進のモデルとなるものであり、本市のまちづくりに大いにつながるものであると捉えています。

また、2018年度の文化財収蔵庫の完成により、市内の貴重な文化財を一元管理することができるようになりました。博物館とも隣接しており、市民への公開や発信に力を入れていきます。

さて、2019年度から始まる『野洲市生涯学習振興計画第2期』<sup>(注8)</sup>（2019～2023年度）では、「次代の地域の担い手の育成～豊かな地域社会に～」をめざす姿と位置づけ、生涯学習による豊かな地域社会づくりをめざして施策を計画的に進めます。そして、全ての世代のみなさん一人ひとりの人生がより豊かで充実した野洲のまちづくりにつなげていきます。

## 2. 2019年度の具体的な施策

### (1) 学校・園・・・子どもの「生き抜く力」を育てます。

子どもたちを取り巻く社会はグローバル化や情報化、多様化が大きく進んでいます。こうした社会の変化に柔軟に対応し、子どもたちがたくましく生き抜いていくためには、「自ら考え、判断し、やり遂げる力」と「仲間と協働し、たくましく生きる力」を身につけることが大切です。学校教育では、子どもたちの発達段階に応じて豊かな情操や自尊感情、人を思いやる心、社会性などを育み、生涯にわたって運動に親しむ能力や体力づくり、食育などによる健康の保持増進の基礎となる力を培うとともに、確かな学力を身につけていくことが必要です。

#### 特に、新規事業として

- ①通級指導教室指導員（1名）を新たに配置し、通級指導教室で学ぶ生徒に対してきめ細かい支援を行っていきます。
- ②学校、給食センターと学校教育課の3者で担っている給食負担金の徴収事務を学校教育課に一元化し、適正化、効率化を図ります。また、そのことで「働き方改革」を進め、教員が児童生徒に向き合う時間を増やします。
- ③三上こども園が開園し、こども園4園（篠原、ゆきはた、さくらばさま、三上）と4幼稚園（中主、祇王、野洲、北野）の8園体制で就学前教育を進めます。

#### 継続、拡充する事業として

- ①すべての子どもたちが元気に生きいきと学ぶことができるよう特別支援教育担当を継続して配置するとともに、外国人児童生徒への日本語指導員による支援に努めます。
- ②小・中学校の道徳教育や人権教育の充実を努め、いじめや差別を許さない仲間づくりを進めます。
- ③児童生徒のいじめや不登校、問題行動、また、教職員の不祥事や体罰問題などの克服のための教職員研修の充実を図り、学校・園の初期対応や組織対応の強化に努めます。
- ④増加する学校の若手教職員の資質向上を図るため、市教育委員会による学校訪問を充実します。
- ⑤こども課等児童福祉部門と連携しながら、就学前教育の充実を努めます。
- ⑥全ての小学校に英語教育支援員（6名）を配置します。（増員）
- ⑦スクールソーシャルワーカー<sup>(注9)</sup>（6名配置）とそれらを指導、統括するスーパーバイザー<sup>(注10)</sup>（1名）を配置し、関係機関と連携しながら、子どもたちの情緒安定化と家庭教育環境の支援を更に充実します。
- ⑧教職員の業務支援を図るスクール・サポート・スタッフ<sup>(注11)</sup>（9名）を全ての学校に配置し、教職員の働き方改革を進め、教員が児童生徒に向き合う時間を増やします。
- ⑨学校園の特色ある取り組みを支援する「元気な学校づくり」事業<sup>(注12)</sup>を進め、子どもたちが将来の夢や希望をもてる体験活動や「キャリア教育」<sup>(注13)</sup>などを推進します。また、その成果を市民に積極的に発信する場を設け

ます。

- ⑩小学生がびわ湖ホール声楽アンサンブルによるオペラ公演を鑑賞し、生の芸術（質の高い芸術）に触れる機会を確保します。
- ⑪市教育研究所等による研修講座を多様化し、新しい学習指導要領にもとづいた「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善や学級集団づくりなど、特に若手教職員の指導力向上に努めます。
- ⑫学校のICT教育を進めるために、小・中学校の老朽化したパソコン教室のパソコンを入れ替えるとともに、普通教室等における無線LAN環境の拡充に努めます。
- ⑬中主幼稚園、中主小学校と中主中学校の「幼小中一貫教育」(注14)を推進するとともに、野洲中学校区や野洲北中学校区の小中連携(注15)をさらに進めます。
- ⑭老朽化した中主小学校及び野洲北中学校の大規模改修並びに将来不足する教室数に対応するための校舎増築に向けて、2018年度の実施設計に基づき、建築工事に着手します。

## (2) 家庭・地域など・子どもの「育ち」を支援する環境の充実に努めます。

大人が子どものよい手本となり、子どもの健全な心身や規範意識を育むことにつながる家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、学校や家庭、地域や企業、行政などがそれぞれの役割に応じて力を発揮し、互いに連携・協力して子どもの「育ち」を支援することが大切です。

子どもの育ちを支援するために、以下の取り組みを推進します。

### 継続、拡充する事業として

- ①家庭や地域と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」運動(注16)や「愛の声かけ運動」(注17)などのあいさつ運動を推進します。
- ②PTAや保護者会と協力し、子どもの社会性や規範意識を育み、子どもを守り育てるための研修会を保護者と教職員を対象に開催します。
- ③学校や家庭とふれあい教育相談センターとの連携をさらに深め、学校生活に関する悩みや課題の解決にむけた取り組みを充実します。
- ④野洲市青少年育成会議の「地域の子どもは地域で守り育てる」視点を尊重し、また、守山野洲少年センターと連携することで、市内の青少年の健全育成を図ります。
- ⑤各コミュニティセンターで地域の人々が運営される「地域子ども教室」(注18)について、子どもたちの体験学習の場としての支援を続けます。
- ⑥地域全体で学校教育を支援する「学校応援団」(注19)事業をさらに進めるとともに、コミュニティセンターや学校評議員との連携を深めます。

## (3) 生涯学習・・・「だれでも、どこでも」学びあう環境を整備します。

誰もが自己の生活を豊かにしていくためには、生涯をとおして自ら学びを広げ、深めていくことが重要です。本市では「おとなも子どもも共に学びあう」という考えのもとに、生涯学習社会の実現をめざしています。

この理念をさらに高く掲げ、すべての人が参加しやすく生きがいを感じられるような生涯学習・生涯スポーツの環境の整備や提供を進めるとともに、各個人がその学習の成果を生かせる環境づくりを進めます。

### **継続、拡充する事業として**

- ①市民に学習機会を提供するため、生涯学習出前講座<sup>(注20)</sup>の実施や生涯学習セミナーを開催し、生涯学習を推進します。
- ②美術展覧会や文化芸術祭などを開催し、文化・芸術活動への支援を継続します。また、参加者を増やすために市民に周知します。
- ③郷土ゆかりの俳人北村季吟の顕彰事業<sup>(注21)</sup>を進め、市民に俳句の楽しさを知ってもらうため、俳句会やお話会・歌声コンサートを開催します。
- ④文化ホールの独自公演の開催に努め、特に若者層を中心に人気のアーティストを招聘します。
- ⑤「野洲市スポーツ推進計画」<sup>(注22)</sup>に基づき、誰もが気軽に楽しくスポーツができる生涯スポーツ社会の実現をめざします。
- ⑥地域での人権教育や啓発事業を進めます。
- ⑦史跡公園である大岩山古墳群の維持管理を図り、公開活用を進めます。
- ⑧江戸時代初期の将軍宿館である「永原御殿跡」(永原・江部)については、地権者と地域の協力を得ながら総合的な調査を継続し、2019年度に国史跡の指定をめざします。
- ⑨市内で実施する発掘調査について、現地説明会や博物館展示等により、調査成果を広く市民に公表・発信します。
- ⑩博物館では地域の歴史や文化を時節にふさわしいテーマにより、わかりやすく紹介する展覧会を開催します。(秋期企画展「人と魚の歴史学」等)
- ⑪図書館では、潜在的なニーズにも留意し、新鮮で魅力ある資料を収集するとともに、市民が必要とする資料を確実に提供します。また、子どもと読書に関する講演会などを開催し、保護者や市民ボランティア等、子どもに関わる人への学習機会の提供や啓発を行います。

## 用語解説

### (注1) 野洲市教育振興基本計画

「野洲市教育振興基本計画（第2期）〔平成28年度～平成32年度〕」を策定しており、当計画では、教育を取り巻く社会の動向や第1期計画の成果と課題、総合教育会議で決定された「教育大綱」を踏まえるとともに、国の第2期教育振興基本計画を参酌（参考にして長所を取り入れる）しながら、平成28年度からの5年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにし、本市の教育の一層の推進を図るもの。平成30年度に計画内容の中間見直しを行った。

### (注2) 全国学力学習状況調査

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、日本全国の小中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）を対象として、子ども達の生活スタイルや学習状況を含め総合的に調査が行われる。調査結果について把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証、改善に役立てることを目的としている。

### (注3) 働き方改革

教職員が時間の面でも気持ちの面でもゆとりをもって子ども一人ひとりと向き合えることを目指して、教職員の長時間労働を改善し、子どもと教職員がともに元気でいきいきと活動できる学校にするための取組。

### (注4) プログラミング教育

コンピュータを意図通りに動かす体験をとおして、論理的思考力やコンピュータを上手に活用して身近な問題を解決する力等を育む教育のこと。2020年度から実施される新しい学習指導要領に盛り込まれ、新たに小学校で必修化される。

### (注5) 小中学校施設保全計画

国において平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」において平成32年頃までに個別施設毎の長寿命化計画の策定が求められたことから、今後の小中学校建物等施設の適正な維持管理及び長寿命化を図るため、平成26年3月に策定したもの。

今後計画に基づき、財政状況を見極めた上で、順次老朽化対策を必要とする各小中学校施設における大規模改修等工事を計画的に実施しようとするもの。

### (注6) ICT教育

情報通信技術を活用して、液晶モニター等大型表示装置やタブレットなどを使って効果的に学習を行うことで、子どもの理解力や思考力の向上、学習意欲の向上などの効果が見られます。

### (注7) 永原御殿跡

徳川将軍が上洛する際の宿泊施設として、朝鮮人街道沿いに築かれた城館です。

慶長6年（1601）に徳川家康が宿泊し、以後、家康が6回、二代将軍秀忠が3回、三代将軍家光が2回宿泊し、寛永11年（1634）の家光の宿泊を最後に御殿は廃止されました。

### (注8) 野洲市生涯学習振興計画第2期

平成26年3月に策定した野洲市生涯学習振興計画の期間が満了し、これまで推進してきた諸施策を見直し、充実・発展させて、平成31年度から5年間の本市における生涯学習施策を、計画的に振興するための指針として策定しました。

(注9) スクールソーシャルワーカー

貧困やDVなど子どもの家庭環境による問題に対応するため、教員を支援し、家庭児童相談室や市民生活相談課などの市の関係機関と連携しながら、課題解決を図る福祉の専門家のこと。

(注10) スーパーバイザー

教育及び福祉の分野で、高い専門的知識と技術及び経験を有し、スクールソーシャルワーカーの統括、指導・助言ができる福祉の専門家。

(注11) スクールサポートスタッフ

「働き方改革」を進める目的で、教員の授業以外の仕事を補助的に行うために配置された職員。

(注12) 元気な学校づくり事業

市長が適当と認めた学校及び幼稚園の事業に対し、予算の範囲内において「元気な学校づくり事業補助金」を交付し、野洲市立の小学校、中学校及び幼稚園での教育活動を支援することにより市の教育活動の振興を図るもの。

(注13) キャリア教育

子ども一人ひとりの職業的、社会的な自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を大切にした教育のこと。

(注14) 小中一貫教育

小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、体系的な教育を目指す教育のこと。小・中学校が同じ校舎にある「施設一体型」、校舎が隣接している「施設隣接型」、校舎が別々の場所にある「施設分離型」などのタイプがあり、中主小学校と中主中学校のケースは「施設分離型」に当たる。

(注15) 小中連携

小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育のこと。

(注16) 早寝・早起き・朝ごはん運動

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切であり、家庭における食事や睡眠などの乱れを、個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域による、一丸となった取り組みのこと。

(注17) 愛の声かけ運動

野洲市青少年育成市民会議の主催により、7月の「青少年非行・被害防止強調月間」・11月の「子ども・若者育成支援強調月間」に、多様な主体が一体となって、市内通学路において、まちぐるみで幼児・児童・生徒の通園・通学の姿を見守りながらあいさつや声かけを行うもの。

(注18) 地域子ども教室

学区単位で地域教育協議会を組織して、コミュニティセンターを拠点に子どもたちの活動拠点（居場所）を確保し、放課後や週末、長期休暇等における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援するもの。

(注19) 学校応援団

家庭を含む地域全体で学校教育を支援する組織。

(注 20) 出前講座

自治会やグループなど 10 名以上の方がお集まりいただき、市の業務の中で、市民のみなさんが聞きたい、知りたい、学びたい内容をメニューから選んでいただき、市の職員等が講師となって皆様の地域へ出向きお話しするもの。

(注 21) 北村季吟顕彰事業

野洲郡北村（現・野洲市北）ゆかりの俳人、歌人、国文学者で、近江三聖人(北村季吟、中江藤樹、雨森芳洲)の 1 人である北村季吟（1624～1705）の業績を顕彰する事業として、命日の 6 月に俳句会と地元自治会による追悼法要が開催されます。

(注 22) 野洲市スポーツ推進計画

スポーツを通じて、市民が幸福で活力ある生活を営むことができる施策を進めるために、平成 28 年度から今後 10 年間の目標を示したもので、平成 28 年 3 月策定。